

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第13回 「那須の国立公園指定70年の歴史を経て思うこと」

日光国立公園は、昭和9年（1934年）に、日本で最初に誕生した国立公園のうちの一つです。那須地域は、昭和25年（1950年）に甲子、塩原等とともに拡張、編入されました。当時の『国立公園』（80余年の歴史を持つ、自然公園専門誌）の千家啓磨氏の記事によると、日光国立公園を拡張したいという考えは、「既設の公園が自然美と人工美を合せ、世界に誇る国立公園とは言っても、規模が比較的小さく、地貌の変化に乏しく、僅かに一両日でその大容がみられる、こうしたことは、世界の日光として、国際観光事業の重要な役割をはたすには一層不十分である。もっと規模雄大で、変化にとむ公園にしたい、そして、真に国民のレクリエーションの地としての国立公園にふさわしいものとし、同時に外客誘致につとめたい」という理由からだと言われています。当時、大きな期待の込められた拡張だったことがうかがえます。同記事は、「青少年のための野外施設や科学施設の出来る夢

物語（中略）が現実のものとなる日が近いことと信じている」と結ばれています。70年が経過した今、那須平成の森は、まさにその一部を体現する施設でもあると考えています。宮内庁から譲り受けたこのフィールドが、子どもや若者の体験や学習の場として活用され、我が国ひいては世界の自然環境の保全を考える入口になることを期待しています。



2021〜2025年までの取り組み方針をまとめた報告書

現在環境省では、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」とすることを目指して「国立公園満喫プロジェクト」を実施しています。那須地域を含む日光国立公園は、先行的、集中的に取り組



噴煙上る茶白岳

みを実施する国立公園として選ばれ、さまざまな取り組みを行ってきました。詳しくは、環境省のホームページで紹介しています。

<http://www.env.go.jp/nature/mankitsuproject/>

環境省日光国立公園管理事務所
所長 千田純子



千振保育園で行われた「親子プログラム体験」取材した。「AI」「ICT」「プログラミング」などの言葉を聞くと、総じて苦手意識を感じる私に対し、子どもたちは「すごい」「またやりたい」と楽しそうな声を上げていた。▼プログラム体験後の保護者向けの講話では、講師を務めた学校教育課プロ

ラミング教育推進スーパーバイザーの星野尚氏が、「プログラミングは、困っている人を助け、社会を良くするための方法として生かせる。子どもたちをAI、ICTのより良い使い手に導いてほしい」と保護者へ伝えた。▼講話を聞いた保護者からは、「基本的なことも危険なことから回避する方法も知らなければ」「親も子どもと一緒に学びたい」「視力（の低下）やインターネットからの悪い影響も親

として守ってあげられる状態ではない」といったなどのさまざまな感想が出た。共通するのは、AIやICTが私たちの暮らしに「必要」だと感じていること。▼必要だと感じても、何をどう始めたら良いのか分からないのが不安や苦手意識の原因のように感じた。▼8月号から、町のIGAスクール構想や町内の小中学校の取り組みをシリーズで紹介する。まずは学校の取り組みを知ることから始めたいと思う。

こんにちは 赤ちゃん



令和元年12月5日生

父 厚太さん
母 夏紀さん
しゅん た
佐藤 峻太 くん(本町)

峻太くんは…
食べること、ジャングルジムで遊ぶことが大好きです！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (6月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数 10,503世帯 (+20)
●人口 24,683人 (+9)
男 12,281人 (+7)
女 12,402人 (+2)

出生 9人 (+ 3)
死亡 28人 (+ 8)
転入 75人 (-44)
転出 47人 (-61)
その他 2人